

Janmadin kī Jay Jay!

ジャンマディン・キー・ジェイ・ジェイ！

グルマーイの誕生日のお祝いの報告
シュリー・ムクターナンダ・アーシュラム
2016年6月23－30日

第4部

賛美のメロディーのガーランド ペドロ・サ・モラエス

「これからナーマサンキールタナのガーランド(一連のナーマサンキールタナ)をチャンティングします」と、ミーラが言いました。「オオオオー！」と、参加者が喜びを表現する感嘆の声がホール中に広がりました。ミーラは、私たちは「カーリ・ドウルゲー・ナモー・ナマー」、「シュリー・クリシュナ・ニーラー・クリシュナ」、「ジャヤ・ジャヤ・シヴァ・シャンボー」と、バクティ・ラーガの旋律で「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」をチャンティングします、と発表しました。

11 歳のテージヤスが興奮して叫びました。「『オーム・ナモー・バガヴァター・ニッテヤーナンダーヤ！』を忘れないように」

ミーラは笑って、「今日は『ムクターナンダーヤ』とチャンティングするの。これでいいかしら」と言いました。テージヤスはうなずき、ミーラは「良かったわ。ありがとう」と言いました。

グルマーイはミーラに、子どもたちが何をチャンティングするかを選んだことを説明するように勧めました。ミーラは、グルマーイが今日の一連のチャンティングのために、彼らが大好きなナーマサンキールタナを子どもたちに選んでもらうように頼んだのです、と言いました。

「子どもたちは全部のチャンティングが好きで、どれが一番か決められなかったの
で、私たちはこの四つに絞らざるを得なかったのです」と、ミーラは言いました。

子どもたちが大好きなチャンティングがたくさんあるのはなぜか、私にはよくわかり
ました。シッダ・ヨーガのナーマサンキールタナは一つ一つ独特で、神のそれぞ
れの特定の側面を褒めたたえています。ラーガの一つ一つは、それ独特の
ラサ(甘美さ)を持ち、特別な資質を呼び覚まします。幾つかのナーマサンキール
タナは、優しく、甘美で、陽気です。また、他のものは雄大で、意気揚々として、
荘厳でさえもあります。さらにその他のものは深遠で、静寂です。

一連のナーマサンキールタナをチャンティングすることの美しさは、参加者が献身
的な修行のさまざまな味わいを一遍に体験できることです。それはバースデー・
ブリスのためにグルマーイが私たちに与えてくれた神聖な美德のようです。つまり、
一つ一つの美德が異なった形で、私たちを大いなる自己の至福に触れさせ、
そこから行動させるように、それぞれのナーマサンキールタナは独特の方法で
私たちの存在の源へ私たちを引き戻してくれます。

14 世紀のマハーラーシュトラ州の詩聖、ナームデーヴは、ナーマサンキールタナ
の力、つまり神の名前をチャンティングすることの力をはっきりと述べています。
彼のバジャンの一つの中で、シュリー・ナームデーヴは言っています。

神の名前は神聖なる大いなる意識の住む場所である。¹

すべてのシッダ・ヨーガのナーマサンキールタナのラーガとラサ、私たちがチャン
ティングするときにたたえるすべての神の名前は、内にある一つの神聖な大いな
る自己の空間に私たちを導きます。

グルマーイの限りない慈愛——そして、この 30 年間にわたる彼女の豊富な作曲
とシッダ・ヨーガの音楽の洗練——のおかげで、私たちは多くの方法でこの体験
に触れることができます。

以前に訪問した時に、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムの音楽部門で
セーヴァーをささげていたので、このサツァングではミュージシャンの一団を
支えるために彼らと一緒に座るように招かれました。チャンティングが始まる直前
に、私は指揮者のクリシュナ・ハダッドに注目して彼の指示を待っていました。
私は肩を楽にして背筋を伸ばし、呼吸に意識を向けていました。ホールはシーン
と静かになっていました。

クリシュナの手が振られた瞬間に、バスーンの深くて温かい音が辺りを満たしまし
た。私たちは女神、ドゥルガの姿をしたクンダリニー・シャクティをたたえる「カーリ・

¹ English translation by Ramchandra Dattatraya Ranade, *Mysticism in India: The Poet-Saints of Maharashtra* (SUNY Press: Albany, NY, 1982), p. iv.

ドゥルゲー・ナモー・ナマー」を歌い始めました。深いドラムのリズムに乗って、バイオリンが湧き上がってきました。チャンティングは力強く、壮麗で、それは確かにマハードゥルガと彼女が体現する勇気、強さと輝きを呼び起こしました。

私たちは次に明るい、優しいティラング・ラーガの旋律の「シュリー・クリシュナ・ニーラー・クリシュナ」に移りました。グルマーイはかわいい赤ちゃんのクリシュナであるバーラ・クリシュナについてのこのチャンティングを、特に子どもたちのために作曲したのです。私はシュリー・ニーラーヤに集まっている子どもたちの方を向いてほほ笑みました。多くの子どもたちは音楽に合わせて身体を揺らしていました。ドラムが速くなると、指揮者は音量を変えてチャンティングするように私たちを導きました。最初は子守唄のように優しく、そして後には生き生きとした最高潮になりました。辺りには一種の元気の良い甘美さ——歓喜が感じられました。チャンティングをすればするほど、私の中でこの喜びが育っていくのを体験しました。

私たちの一連のナーマサンキールタナの3番目は「ジャヤ・ジャヤ・シヴァ・シャンボー」で、私たちの大いなる自己、そしてあまねくものの大いなる自己であるシヴァ神をたたえました。ゆっくりしたテンポに移り、深い低音が各楽器から聞こえました。私たちがグルマーイとチャンティングしている時に、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのサイレント・パス(静寂の道)にあるシヴァ神の像が私のマインドに浮かびました。このマルチに描かれた神は、ヨーガのポーズで真っすぐに座っています。彼は山のように安定していて、内側に向けて凝視しています。私が「ジャヤ・ジャヤ・シヴァ・シャンボー、マハーデーヴァ・シャンボー」と歌っていると、偉大な神の絶対なる静寂さ、力強さ、そして瞑想の資質を体験しました。

私の職業は音楽家です。そしてシッダ・ヨーガの音楽に対する愛がこの職業を選んだ動機となりました。しかし、シッダ・ヨーガの音楽を独特のものとし、これほど力強いものとしているのは、それがマインドと心に影響を与えるということです。私が敬愛するグルマーイと共にチャンティングしていると、マインドに浮かぶ思考は次第に静かになっていきました。心はもっと、もっと開かれていきました。私の存在のすべては、優しい明らかな愛に満ちた振動の中で安らぎました。チャンティングの音が私の心と、私の優しいグルの心をつないでいるかのように感じました。

最後のナーマサンキールタナは、「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」で、グルマーイの作曲であるバクティ・ラーガのメロディーでした。このチャンティングは我が家に帰ってきたかのように感じました。神の実に多くのさまざまな現れ——マハーカーリ、マハードウルガ、シュリー・クリシュナ、シヴァ神——をたたえてチャンティングした後で、私たちはシッダ・ヨーガの系譜のグルを歓呼して迎えました。グルに対する献身の思いは、チャンティングが進むごとに強まっていたのですが、今、献身のラーガであるバクティ・ラーガをチャンティングするに至って、私は大きく声を上げて歌いました。

このチャンティングのテンポが速まってくると、グルマーイはシュリー・ニーラーヤの参加者の半分は「オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤ」と歌い、反対側の半分は「オーム・ナモー・バガヴァター・ニッテャーナンダーヤ」と歌いなさいと指示しました。それはサツァングの初めにテージャスが提案した言葉に対する嬉しい返答でした。間もなくホール全員が立ち上がり、タンバリンが鳴らされ、「バガヴァター！バガヴァター！バガヴァター！」と、陶醉しながらチャン

ティングしていました。ハーモニアムが「ジョータ・セー・ジョータ・ジャガーオ」のアーラティーのメロディーに移るまで、私たちはそのまま立ち続けていました。

アーラティーが完了するや否や、テージャスはグルマーイに「ハッピー バースデー・トゥー・ユー」と歌い始めました。私たちは早速それに加わりました。するとテージャスは「メイ・ゴッド・ブレス・ユー（神があなたを祝福しますように）」と2節目を歌い始め、また、私たちはそれに従いました。

私たちが歌い終わると、グルマーイは「とてもすてきだったわ、テージャス」と言いました。「ありがとう。これで私の誕生日をどう祝うかがわかりましたよ」

私たちは全員笑って、拍手しました。ミーラは、素晴らしいナーマサンキールタナのガーランドと、そして特に最後の驚きであった「オーム・ナモー・バガヴァター・ニッテャーナンダーヤ」と歌うように導いてくれたことをグルマーイに感謝しました。ミーラはそれからテージャスに、サツツァングの初めにした提案に感謝しました。

「全部話さない」と、グルマーイはほほ笑みながら言いました。

ミーラは説明しました。「私がお話したように、子どもたちは意見を聞かれました。私たちはどのチャンティングが最も好きかと聞きました。子どもたちはとても多くのチャンティングを選んだので、1日中チャンティングしていなくてはならないほどでした。テージャスが聞かれると、彼は「オーム・ナモー・バガヴァター・ニッテャーナンダーヤと、オーム・ナモー・バガヴァター・ムクターナンダーヤと、オーム・ナモー・バガヴァター・チッドヴィラーサーナンダーヤ」が好きだと言いました。

「彼は今も『オーム・ナモー・バガヴァター・チッドヴィラーサーナンダーヤ』と歌っていましたよ」と、グルマーイが言いました。「クリシュナが聞きました」

クリシュナは、「私たちが歌っている時に聞きました。テージャスは『オーム・ナモー・バガヴァター・チッドヴィラーサーナンダーヤ』とチャンティングしていました」と言いました。

「本当だよ！」と、テージャスは叫びました。

「テージャスは皆を含めたかったのです。シッダ・ヨーガのグル全員に入って欲しかったのです」と、クリシュナは説明しました。グルマーイはテージャスに、心が溶けるような微笑を送りました。ホールにいる全員から「アァー」という感嘆の声が聞こえました。私たちの心はすでにチャンティングで溶かされ、開放されて一つの偉大な大海となっているように感じました。私はたった今グルマーイと共に、グルマーイにささげるアーラティーを歌っていた時の体験を思い出しました。グルマーイを見つめて、「あなたのランプから私のランプに火を灯して下さい。サッドグルよ」という意味の言葉を歌ったときに、祈りが心に湧き上がりました。「私が歌うすべての歌が、敬愛する人へのささげものとなりますように。一音一音が、シュリー・グルマーイから受け取った人生を変容させる贈り物への感謝の表現となりますように」

次へ続く…